

雲林寺報

第拾八号



毎年、年頭の御挨拶には曹洞宗宝暦(こよみ)、御札、お年賀をお配りさせて頂いております。

暦には心温まる、毎月のおことばがございます。「毎日のおつとめ」には作法がわかりやすく載っています。是非活用してください。

今年のお年賀はハンカチです。「一期一会」は様々な解釈がございますが、檀信徒の皆様には

家族など、毎日接している人たちに対し『今日が最後』『今が一生に一度きりの時間出逢い』という気持ちで悔いのないよう、心をこめて接していただきたいと思います、筆をとりました。

年頭の御挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。とともにも皆さまのご多幸とご繁栄を心より祈念申し上げます。

昨年政治や経済などでさまざまなことが起こり、社会の混乱が浮き彫りになったように思えます。多くの方々が先に行き不安を感じたのではないのでしょうか？

人は誰しも先のことを考えると不安になります。未来のことは分からないのが当たり前だからです。古い仏教のことに

「過ぎ去れるを追うことなかれ、いまだ来たざるを念う(おもう)ことなかれ」 一夜賢者の偈

というものがありません。過ぎてしまったこと、まだ来ていないことについてあれこれ思うのは悩み苦しみのもととなります。

禅には

「日々是好日」にちにちこれこうにち

ということばがあります。

あれこれ思い悩むことなく、一日一日の出来事をかけがえのないものとしてとらえ、良い事も悪い事も受け入れ、一生懸命に暮らす。すると日々がかけがえのない「好き日(よきひ)」となるのです。毎日がかけがえのないものになれば、毎月が毎年がかけがえのないものになり、生きる事がかけがえのないものとなります。

新年を迎え、この一年をより良く生きるためにも「日々是好日」の気持ちで暮らしてみたいかがでしょうか。

住職 轟 紀久

本年もよろしくお願ひ申し上げます

(総代)
 会長 萩原昭朗
 副会長 櫻井芳樹 田村 守
 書記 長谷川誠 黒岩 元
 会計 山口次夫 永井芳司
 監事 野口敏幸 櫻井輝久 宮崎 透

(世話人)
長野原 安齊たけ 市川儀一 黒岩範一
 黒岩保男 宮崎広保 山口喜正
 湯本定由 山崎敏男
大津 浅見良雄 市村真 小林喜一郎
 櫻井敏雄 塩野英介 湯本茂
 吉澤功

羽根尾 黒岩進 櫻井守夫 山口義秋
与喜屋 萩原富夫
横壁 金子茂雄
林 小林寛 篠原憲一 篠原忠秋
川原湯・川原畑 豊田清
北軽井沢 青木博文 土屋満洲夫
 小林一雄 清水忠雄 岩田紀重
 宮田満 吉田昇 恩田明

平成27年雲林寺年間予定

1月2日	大般若祈禱会	4月8日	釈尊降誕会(花祭り)
1月4日~7日	年頭のご挨拶廻り	5月下旬	梅花流全国大会
1月18日	初観音梅花流新年会	6月中	第3回護持会総会
2月3日	節分会	8月5日	天明供養祭
~下記 厄年表をご覧ください~			
2月15日	釈尊涅槃会	8月14日	大施食会
2月16日~17日	梅花流一泊研修	9月20日~26日	秋彼岸
2月中旬	教区護持会新年会	10月12日(体育の日)	第7回雲林寺 親睦ゴルフコンペ
2月下旬	梅花流上級者検定	10月~11月頃	教区護持会団参旅行
3月初旬	梅花流宗務所検定	10月上旬	忠霊塔供養祭
3月18日~24日	春彼岸	11月予定	梅花流群馬県大会
4月3日	大般若会	12月8日	釈尊成道会
		12月31日	除夜の鐘

平成27年 厄年早見表

	前厄	本厄	後厄
女19歳の厄	17歳(1998生)	18歳(1997生)	19歳(1996生)
男25歳の厄	23歳(1992生)	24歳(1991生)	25歳(1990生)
女33歳の厄	31歳(1984生)	32歳(1983生)	33歳(1982生)
女37歳の厄	36歳(1979生)	36歳(1979生)	
男42歳の厄	40歳(1975生)	41歳(1974生)	42歳(1973生)
男女61歳の厄	59歳(1956生)	60歳(1955生)	61歳(1954生)
幼児4歳の厄	2歳(2013生)	3歳(2012生)	4歳(2011生)

主な催しのご案内(後期)



① 八月十二日、中央小サッカー部のこどもたちがお寺に一日宿泊しました。朝五時起床後、坐禅を行い、朝のおつとめを終えた後五観の偈を唱え朝食(お粥)を頂きました。

② 八月十四日、大施食会の法要が厳修されました。法要前に群響所属のチェリストをお呼びしてコンサートが行われました。日本の歌曲やバッハの無伴奏チェロ組曲等、名曲を披露していただきました。

③ 大施食会の法要は常林寺、無量院、龍澤寺の住職、副住職に随喜して頂き総勢八名の僧侶で厳修されました。法要時には五色の幡を飾りますが、これは、せじきえ幡といい、五人の仏様の名前が書かれております。この名前には鬼の心から離れられる願いが込められています。

今回は、約二百名の檀信徒の皆様にお集まりいただき、お焼香して頂きました。

④ 十月二日は忠霊塔供養でした。忠霊塔は終戦の昭和十九年八月、雲林寺境内に建立され第二次世界大戦の戦没者のお骨を安置しております。遺族の方が集まりお焼香して頂きました。

⑤ ⑥ 十月二十一日、二十二日の二日間、長野原警察署の署員による坐禅会が行われました。内田署長の計らいで今回署員全員約五〇名の方に座って頂きました。皆様座相が素晴らしく、特に女性署員の方の座相は目を見張るものがありました。機会があればまた是非お越し頂きたいものです。尚、坐禅をやってみてみたい方は、いつでも受け付けております。

第六回雲林寺親睦ゴルフコンペ

昨年一〇月十三日、第六回雲林寺親睦ゴルフコンペが開催されました。当日は台風が心配される中、四十三名の檀信徒の皆様にお集まりいただきました。さほど天候が崩れることなく、プレーすることができました。



結果発表

- 1位 田村英樹様
 - 2位 唐澤明雄様
 - 3位 野口善行様
 - 4位 市村隆宏様
 - 5位 篠原博史様
 - 6位 市村武文様
 - 7位 小林秀喜様
 - 8位 篠原克己様
 - 9位 宮崎信彦様
 - 10位 小林 清様
- バスグロ 市村隆宏様

沢山の賞品をご寄付頂きました。ありがとうございます。

- 金巻萬圓 萩原昭朗様
- 草津温泉ホテル櫻井ベア宿泊招待券 山口次夫様
- ティファールフライパン三個 櫻井芳樹様
- コシヒカリ十キロ 櫻井輝久様
- ポディーソープ二本 吉澤建設様
- 夕食御招待券 長谷川浩一様
- 草津ナウリソフトホテル様
- キャディバッグ ゴルフボール
- ゴルフキャップ 草津カントリークラブ様

感謝録



お地藏さんの帽子、おかけ

吉田けさい様
篠原禮子様

境内、参道の草木の手入れ

市川三男様



天明供養地藏堂と本堂前の六地藏



参道にある天明供養地藏のおかけを吉田けさい様に、本堂前の六地藏の帽子とおかけを篠原禮子様毎年作って頂いております。
山門、参道、国道沿いの雲林寺駐車場を市川三男様にお掃除をして頂いております。ありがとうございます。

寄稿

水戸藩士・外岡龍三郎の埋葬箇所は何処 大津 小林次男

雲林寺境内墓地の一隅に、水戸藩士・外岡龍三郎の墓碑が苔むし淋しく建っている。今から一八〇年余り前の天保三年に立石村坂の上で外岡は、旗本勘定役山田寿之助一行との刃傷沙汰となり非業の死を遂げた。(立石坂事件)この事実は大津老人クラブの先輩による古文書の解説、茨城県立歴史館の仲田先生の研究によって明らかになっている。大津老人クラブは、昭和六三年春彼岸に一六〇回忌追善供養をそして平成二五年秋彼岸に一八〇回忌追善供養を行った。

外岡龍三郎の遺骸が埋葬された位置は、現在墓碑のある所なのか疑問がわいてくる。当時埋葬された箇所は、山裾に近い処だったのではないか。その理由をあげてみたい。

① 当時墓地の地形は急斜面で、崖錐帯で覆われている。

外岡の遺骸を埋葬したのは、天保三年である。現在のように墓数は多くなかったであろう。急斜面の上段に埋葬する必然性はあったのか。墓碑は天保八年には建てられていたと推量される。

② 現在、墓碑のある位置はつつらおり通路の鋭角部の箇所にある。

遺骸を埋葬したような若干の広場もない。墓碑を安置できる程度の広さである。当時からつつらおり通路があったか定かではないが。

③ 墓碑は山側(北向き)を向いて建っている。

墓碑はなぜ斜面の上方向を向いているのか。各所の墓碑(古い)を見ても山を背にしている場合は、殆どが谷側を向いて建っている。

④ 山裾部分は開発され、駐車場等で利用されている。

開発時に墓碑の移動はなかったか。

水戸藩士・外岡龍三郎の埋葬場所と墓碑の位置は違うのではないかと疑問が湧いてくる。誰かこの疑問に答えていただけると期待したい。

行事の御案内

節分会(二月三日午後七時より)

昔は立春・立夏・立秋・立冬の前後を節分といっていました。後に特に立春の前後をさすようになりました。節分は太陽暦では二月の初めですが、太陰暦では十二月ある一月の年もあり、節分は正月の行事でもあったわけ。昔から社寺をはじめ、一般家庭でも節分の夜は「福は内、鬼は外」といって、イリ豆をまき、一般には「豆まき」とか「豆打ち」といいます。

陰陽道では冬から春への季節の変わり目に、陰の気と陽の気が激しくせめぎあいして邪気を生じ、災いをもたらすということから、これを払う行事ができたわけです。

厄年の方は是非厄払いの祈禱をお申し込みください
記念品付祈禱料 3500円
一般祈禱料 2000円
記念品付祈禱をお申し込みされた方は当日、会場の壇上へ上がって福豆をまいて頂きます。

大般若会(四月三日午前10時半より)

大般若会とは、大般若経の経文を読む(転読)ことにより、その功德をもって、世界の平和や参列者の平安などをご祈禱申し上げる法会です。

この転読とは、僧侶何人かで手分けして経本をアコーディオンのようにパラパラと広げてめくって流し読むことで、それによって清らかな「般若(はんにや)の風」が起きるとされています。この清らかな風が当たることで、昔より家内安全、厄難消除、商売繁昌などのご利益があるとされています。是非皆様多数参列されて、転読による般若の清らかな風のご利益をお受け下さい。

大施食会(八月十四日午前11時より)

施食会の目的は、あの世で苦しむ餓鬼に飲食を施すことです。また、ご先祖様のご冥福を心より願うとともに、万物諸々に対する思いやりの心と感謝の気持ちを持ち上げると供養なのです。

では、何故、お盆の時期に施食会がおこなわれるようになったのでしょうか。それは、お盆の由来である、目連さま(もくれんさま)が餓鬼道に落ちた母親を救った話と、施食会の由来である阿難さま(あなんさま)が餓鬼に施しをして救われた話が似ていることがひとつ。もうひとつは、故郷のご実家に皆が集まるお盆の時期に各家庭ではご先祖様をおもてなしする行事を行い、お寺では施食会法要を営み、その法要に家族・親戚皆でお寺に行き、お寺に願うという意味が込められて一緒にの時期に行います。



恒例となっていた秋の県大会が平成二十六年度は春に行われた檀信徒大会と併設して開催されました。その為、秋には講員さんと共にゆったりとした時を過ごす事ができたように感じられます。しかしその反面何か物足りなさを覚えたことも確かです。おけいご事全般に言われる事ですが梅花もそのひとつ、研修を重ねるたびに難しいと思いますが、その中で同行同修を持続できると感動し、新たな仲間との出逢いがあるからではないでしょうか。

今年度は宗務所長様をはじめ、宗務職員が交替の年となります。どうぞ講員の皆様、法悦、感謝、報恩の念を持って実践生活を続けてゆきましよう。そして、梅花流をはじめてみたい方、いつでも歓迎致しますのでご連絡お待ちしております。

轟 美代子 合掌



忠霊塔供養にて



檀信徒大会にて

講員さん募集中
雲林寺では毎月2回2時間程度(詠歌(梅花流)の会がございませう。参加費無料。詠歌は、ご供養の気持ちを心温まるメロディーにのせて歌います。初めての方でも是非お気軽にお越しください。お待ちしております。

